平成 26 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	高麗川ふるさとの会	実施日	H26.4/1～H27.3/20 まで
代表者	三浦　輝夫	活動場所	高麗川
タイトル	高麗川の良好な水辺環境の保全活動		
活動目的	高麗川の良好な水辺環境を将来の子孫に引き継いで行くことを目的とし、行政との協働のなかで様々な活動を推進していく。		
活動内容	主な活動としては、環境、植生、水生生物・水質、野鳥、学童支援、高麗川塾、広報の７分科会を中心として、浅羽ビオトープ周辺の清掃活動(毎月)、植生及び野鳥観察会、小学生を対象とした水の中の生き物調べ、高麗川に関連する写真展、こまがわニュースの発行などを行った。 浅羽ビオトープ清掃活動 浅羽ビオトープ水質浄化活動 坂戸市環境展参加 広報発送作業		
活動の成果	荒川上流河川事務所主催の川のクリーン作戦に参加するなど、広い地域交流を通じ河川環境保護の意識啓発を図るとともに、こまがわニュースにて多くの市民へ活動の報告を行った。 今後も関係団体との更なる連携を図りながら河川環境保全を行うとともに、写真展や野鳥調査、植生観察会などを通じ、より多くの方が親しみを持てるような活動をこまがわニュースなど通じ、紹介して行きたい。		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	１０６，４００円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 26 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	駿河台大学	実施日	H26.7/19、8/26、9/3、9/9、9/17
代表者	川村　正幸	活動場所	入間川
タイトル	入間川を守る！外来種駆除・除去＆環境保全		
活動目的	駿河台大学では、グローバル化の著しい現代社会における地域社会の諸活動の中で中核的役割を担う幅広い人材を育成することを教育目標としている。本活動を通じ、学生たちによる調査研究を推進、さらに深く地域の環境保全の必要性を考えるきっかけとしていきたい。		
活動内容	本活動では、まず入間川の環境の現状を知るため、河川生態系の学習を行い、基礎的な知識の定着を図った上で、入間川での外来魚駆除・外来植物除去を行った。現場での作業は４回、現場で作業を行っている入間漁協の指示に従いつつ、外来魚駆除については刺網、地引網、投網を使用して捕獲・駆除を行い、また、外来植物除去については鎌などを使いつつ、身近な地域で起こっている環境問題を考えた。捕獲した外来魚については廃棄処分ではなく、調理して食し、命の尊さを学ぶとともにその有効利用について考えさせた。後日、参加学生に体験記を書かせ、本事業の評価と広報を行った。 地曳網 コクチバス 伐採作業 外来魚調理風景		
活動の成果	学生が地域社会の中で実体験を積むことが大きな意義をもつことは、これまでの活動でも大いに実感し、学生たちの成長につながってきている。また、学生が外来種の駆除・除去という環境保全活動をすることで地域貢献をするとともに、これまで継続して活動に取り組んでいるおかげで、地元メディアの影響もあり、地域住民に対する大学としての活動、入間川の環境問題への関心が高まっていることを実感している。さらに今年度は、昨年度駆除に参加した学生が、漁協の在来魚放流活動や河川清掃に関わらせていただいた。 今後はさらに入間漁協との連携を強固なものとし、より広く広報を行えるような、例えば地域住民を巻き込むようなイベントの開催などにより、本活動の幅をひろげられるようなことも視野に入れつつ、活動をしていきたいと思う。		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	２００，０００円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 26 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	狭山市立入間川小学校	実施日	H26.5/10、5/26、10/4、10/31
代表者	千葉　收	活動場所	入間川
タイトル	入間探検隊		
活動目的	本校では４年生の総合的な学習の時間（ゆりの木学習）で、隣接する入間川について調べ、体験する学習を行い、地元の川へ愛着をもてることを目指している。具体的には、川に生息する魚類の調査や、川辺の動植物の観察会、地元の鮎漁、カヌーなどの体験を通して、地元の川とふれあい、愛着心を育むとともに、将来にわたって入間川を大切にする環境保全活動への積極的な参加意欲の向上を図っていきたい。		
活動内容	入間川探検隊では、入間川の生物や岩石など自然科学的な学習や、入間川と人々の生活との関わりなど、社会学習的な学習を織り交ぜて主に 1 学期と 2 学期に行った。 これには、地域の識者を招いてガイダンスを行った後、フィールドワークで体験的学習やまとめの指導を受けた。また多くの保護者の協力も得て実施した。 この活動の目的は、身近な環境を観察する中でかけがえのない環境を保全し、次の世代に伝えていく態度を育てるとともに、故郷を愛する心情を育てるものである。 学習活動は、ガイダンスで入間川の貴重な自然を知り、次に全員による共通のフィールド体験、さらに個々の児童が自らの課題を持って同じ研究を行うグループを作って協力して調査し、最後に地域の人、保護者、3 年生の前で発表するまとめを行った。 カヌー体験 昆虫採集 研究発表会		
活動の成果	当初予定されていた地引網は、天候が不順で川の水位が高く実施できなかった。しかし、カヌー体験は普段できない経験であるため、たくさんの歓声が上がる貴重で生涯の記憶に残る体験ができた。さらに、研究発表を通して、入間川の生態に理解を深め、さらに探究しようとする意欲が高まった。また、自分の考えや思いを相手に的確に伝えようとする態度や能力を高めることができた。 何より自分の故郷に誇りを持ち、豊かな環境の中に生活できる自分を見つめることができた。		
今後の改善点	自然環境が相手であって、天候に活動内容が左右される難しさが今後の課題として残った。		
最終助成決定額	１７０，１９７円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 26 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	ＮＰＯ法人はとやま 環境フォーラム	実施日	H26.4 月～H27.3 月
代表者	愛場　謙嗣	活動場所	唐沢川、鳩川、越辺川
タイトル	鳩山町における自然環境調査保全活動		
活動目的	鳩山町の北東部は県立丘陵自然公園区域にあるなど自然豊かな山村部にあるが、公園内に大規模集合住宅（鳩山ニュータウン）が造成され、町内に４つのゴルフ場ができるなど、相次ぐ開発により自然・生活環境が大きく変化してきている。そうした自然・生活環境の変化を多面的に継続監視（モニタリング）することを通して、多様な生態系の再生とより安全な暮らしの確保に向けての基礎データを蓄積する。また、様々な環境保全活動の体験学習・講演会などを通してそれらの意義への理解を深めてもらうのが活動の目的である。		
活動内容	鳩山町における自然環境調査保全活動 （1）残留農薬分析活動 （2）ホトケドジョウ等水生生物調査活動 （3）エコ図書館運営活動 分析のための採水 エコ図書館利用 生物調査		
活動の成果	（1）残留農薬分析でフェニトロチオン、ヒドロキシイソキサゾール、オキサジクロメホンの 3 成分の残留分析をおこない、いずれも「0.001mg／ﾘｯﾄﾙ未満」だった。しかし、検量線データから微量でも発がん性等が疑われている農薬成分の微量流出の実態が今年度も確認された。これらの分析データをもとに、町に働きかけ、町が平成 27 年 2 月 5 日付で、町内 5 つのゴルフ場すべてに対し「住宅地等における農薬使用について」（環境省通知）の実施、つまり「農薬散布の際の掲示板等での近隣住民への周知」の協力要請書を出した。これは全国でもあまり事例のないことであり、顕著な実績といえよう。 （2）ホトケドジョウ調査では、徐々に生息実態が把握されだし、2009 年から 2014 年にかけて、唐沢川下流での生息数の減少傾向が経年変化で明らかになった。今後はホトケドジョウとトウキュオウサンショウウオの 2 つについて追跡調査を行い、生物多様性地域戦略づくりの基礎データの蓄積に貢献した。いずれも広報紙『フォーラム NEWS』に掲載し、地域住民に情報提供を行った。 （3）こうした活動の作業場所として「エコ図書館」の継続使用は大変役に立っている。		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	２００，０００円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 26 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	ＮＰＯ法人エンハンスネイチャー荒川・江川	実施日	H26.4 月～10 月
代表者	小川　早枝子	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	三ツ又　市民参加で在来植物を増やそう		
活動目的	荒川とその支流の江川を中心とした生態系保全・再生に関する調査・研究、試験活動や環境管理活動を継続的に行っている。		
活動内容	・定期的に毎月三ツ又沼の生物多様性の維持管理のために、下記の活動を行った。 ＊③ゾーン　稀少植物群落の維持管理活動。春から夏は特定外来植物のアレチウリ等を抜き、野焼き等の作業を行った。 ＊クヌギ広場　外来植物抜き。 ＊⑦、⑧, ⑨-1 ゾーン　栽培植物マグワの伐採作業や外来植物抜きを行い、その後一定程度在来植物群落として安定したエリアには、定められた在来植物の播種作業を行った。 ・三ツ又沼でとり組まれている環境教育へ参画した。 川越総合高校とのオオブタクサ抜き 武蔵野銀行とのハナダイコン抜き いずみ高校とのオオブタクサ抜き 定例のオオブタクサ抜き		
活動成果	2001 年から三ツ又沼ビオトープの生物多様性維持管理活動を行っているが、年々外来植物抜きや刈り取りに活動の比重がかかってきている。そこで在来植物の種子を播いて在来植物群落再生を提案してきた。少しずつではあるがその方向に向かいつつある。		
今後の改善点	在来植物の種子播きを行う場合には、すでに繁茂している外来植物を抜きとってからでないと在来植物の定着は難しい。外来植物が一面に生えている場所の抜きとり作業はこれまた忍耐を必要とする。蝸牛のごとき成果の見えない活動ではあるが、わかりやすい目標を掲げて活動を継続することがいま私達に求められている。		
最終助成決定額	１９９，０００円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 26 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	ＮＰＯ法人荒川流域ネットワーク	実施日	H26.7 月～H27.3 月
代表者	鈴木　勝行	活動場所	高麗川、入間川、越辺川
タイトル	地曳網を体験し、五感で川を知ろう		
活動目的	入間川水系の流域の子どもに川遊びの面白さを知ってもらうとともに、アユなどの捕った魚を食べてもらうことで、味覚などを通して、五感で川の環境を知ってもらうことを目指す。		
活動内容	都幾川の嵐山町にある二瀬橋周辺、高麗川の日高市にある獅子岩橋の下流で地曳網漁を開催する予定であった。しかし、都幾川については、台風により中止した。高麗川での地曳網漁は、8 月 17 日に多少増水の中、スタッフ 21 名、一般参加者 21 人で開催した。中止した都幾川の代わりに、9 月 14 日にスタッフ 22 人、一般参加者 17 人で、越辺川の石今橋の上流で地曳網の体験漁を開催した。2 回とも地曳網とタモ網で捕れた魚やエビなどを、参加した子どもたちに紹介して、川で生きる生き物たちに対する理解を深めてもらった。 会場設置風景 高麗川での地曳網 越辺川での地曳網① 越辺川での地曳網②		
活動の成果	参加した親子連れには、なかなか体験できない地曳網漁を体験してもらうことができた。また、川の生き物を知ってもらい、捕った魚の命を頂くという文化に触れてもらうこともできた。ただ、子どもたちには、捕って食べるという体験が少ないようで、抵抗があるようだった。		
今後の改善点	今年は、開催時に増水が多く、網を曳くことが困難な場合が多かった。今後増水時に企画の変更なども考えておく必要があり、地曳き網を中心の企画にせず、子どもたちを中心にした魚捕りと安全な川遊びの体験などをメインに企画を考えて行きたいと思っている。 事故を防ぐため、安全管理のスタッフをさらに充実させていきたい。		
最終助成決定額	１９９，４００円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成26年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	埼玉県立いずみ高等学校	実施日	H26.4月～6月
代表者	吉岡　雅澄	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	三ツ又沼ビオトープの保全活動		
活動目的	三ツ又沼ビオトープでは、年々外来植物が侵入して増えることにより、地域本来の生態系が崩れ、景観が変化してきている。そこで、外来植物を除去し、その裸地に本来生息していた在来植物を植えることにより、地域本来の生態系を再現することを目的とする。		
活動内容	実際に生徒が外来植物を抜き、そこに在来植物の種を播いて育て、また在来植物の苗を植えて増やす活動を行った。 また、現地で地域の自然と直接触れ合うことで実際の問題として認識させ、外来植物の繁殖の脅威を体感させる狙いがあり、自然環境問題を身近な視点からグローバルな視点へと捉えるきっかけになった。 現地での説明を受ける様子 葛の除去作業 保全活動総括発表会 農業クラブ活動報告		
活動の成果	現地での作業を通じて生徒は、環境保全活動の大変さと難しさが肌で感じることが出来たと感じる。この三ツ又沼ビオトープの保全活動は、地域ボランティアや財団法人など多くの団体が活動しており、本校の生徒も自分たちだけでなく、他の人たちと交流を持ちながら、この活動を進めることが出来た。また、この活動を校内だけでなく、新聞や農業クラブ活動で宣伝することができ、多くの人たちにアピールすることが出来たと考えている。		
今後の改善点	一方で、学校行事との折り合いや三ツ又沼ビオトープでの必要な作業での活動が出来なかった等、調整が難しかった。今後は、地域ボランティアなどの団体と密に連絡を取り合い、うまく調整していきたい。		
最終助成決定額	１５２，３６８円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 26 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	川島町網打連合会	実施日	H26.7/13、9/14
代表者	福室　武義	活動場所	入間川
タイトル	投網体験会		
活動目的	より多くの方に投網文化に親しんでもらうため、毎年 5 月に川島町内で行われている「ちびっこフェスティバル」での投網打ち体験（陸地）に続き、河川の浅瀬から投網を打つ経験ができる機会を設けて段階的に投網の技術を上達させていける場を提供し、特に若い世代の人々の投網と魚への関心・意欲を喚起することを目的とした。		
活動内容	7 月、9 月の 2 回「親子・投網打ち体験会」を実施（8 月も予定していたが、水位の上昇により中止）し、東松山農林振興センターの方による投網の打ち方の説明、参加者による投網打ち体験、本会スタッフによる捕れた魚等についての説明、参加者・スタッフ全員による河原の清掃活動等を行った。 親子で投網打ち 講師による打ち指導 魚の説明 魚を観察する子ども		
活動の成果	初企画の行事ということもあり、当初は川島町の広報誌を通じてのみ募集をかける計画であったが、川越市役所等にも案内のチラシを置き、より多くの住民に参加を呼び掛けた。その結果、参加者数は 7 月に 55 名、9 月に 81 名となり（8 月は水位上昇のため中止）、当初予定の 30 名を大きく上回る人数となった。 子供は小学生低学年以下の参加者が多く、今回準備した投網では重過ぎたようで、主にタモ網での魚取りに夢中になり、投網打ちは保護者の方を中心に楽しんでいただく結果となった。参加者からは、思いのほかたくさんの種類の魚がいた、こういう機会が数多く設けられたら良いと思う、等の声が寄せられ、好評であった。		
今後の改善点	参加者数が予定を大幅に上回ったため、運営がスムーズにいかなかった点、小さな子でも投網打ちを楽しめる工夫、中止の際の参加者への連絡方法の確立などが今後の課題として残った。		
最終助成決定額	１４７，０００円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 26 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	上尾の自然を守る教職員の会	実施日	H26.4 月～H27.1 月
代表者	安孫子　繁子	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境を楽しみ会		
活動目的	荒川の自然環境を学ぶとともに、自然の持つ有用性や自然の楽しさを体験的に学ぶことを目的にしている。		
活動内容	今年度は、三ツ又沼ビオトープや河川敷の植物を利用した竹細工教室や親子自然塾三ツ又と一般対象・高校生対象の自然塾三ツ又を企画した。 また、他団体と共同して多くの分野の人々に三ツ又沼の自然を知り、大切にする必要を理解してもらうことに努めてきた。 学習院大学環境教育 親子自然塾三ツ又 竹細工教室 植物調査指導		
活動の成果	ハチクや篠は三ツ又沼ビオトープに多い素材である。しかも管理上問題が多く、適度に減らしていきたい植物で、これを利用した情報発信は従来から少しずつ行ってきた。平成 26 年度は会員の要望から竹細工教室を開くことにした。今年度は来年度のむけての会員研修を兼ねて実施した。事前に考えていたより、多くの細工物が可能だということがわかり、来年度に発展させていく見通しができた。 屋外での活動は、暑さや雨天に左右されやすく開催の判断が難しかった。熱中症に注意したり、雨天の中での開催だったりしたが参加者にはこれも自然という受け止め方をして貰いよかった。 浦和高等学園の環境教育は回を重ね教師も生徒も慣れ、内容が充実してきた。今年は事前に下見に教師に来てもらった。		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	２００，０００円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 26 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	ＮＰＯ法人荒川の自然を守る会	実施日	H26.4 月～H27.3 月
代表者	菅間　宏子	活動場所	荒川、三ツ又沼ビオトープ
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境管理作業		
活動目的	三ツ沼ビオトープの定点調査、自然観察会の実施や広報活動等を実施し、多くの人々に保全の必要性を理解していただくことを目標にして活動した。		
活動内容	設立以来、他団体と協力し三ツ又沼地域の調査・自然保全活動を続けている。行政、学識者、市民団体が協力し、約 20 年の間地域の会員を中心にボランティア活動で保全管理に取り組んできた。活動分野が広がり、専門的且つ継続的に活動を進めるために作業の資材･ガソリン代、活動の資料や経費、保険代が必要になって来た。 今年度は、多くの方に参加してもらい、外来種の駆除やアシ刈りを実施した。 また。自然保護を確実にするため、自然を守ると同時に育てる活動を行った。地元の農家の土地を借り、三ツ又沼ビオトープ周辺の在来野草を種子から栽培し、三ツ又沼ビオトープに本格的に移植を始めた。 管理作業 外来植物除去 葦原の管理作業 野草増殖活動		
活動の成果	今年は荒川市民サポーター事務局とのコラボレーションによる行事が多く、予定行事より活動日が多くなった。反面、外来種の管理作業が効率よくでき、三ツ又沼ビオトオープの自然環境がよくなった。野草の種類による適地についての知見が得られている。		
今後の改善点	来野草の移植については大人数による活動はあまり適していないことがわかった。そのため、臨時の作業が多くなった。また今年の移植作業により、移植の適地についての試行錯誤があり、今後の移植に今年の知見を生かすことができる。		
最終助成決定額	２００，０００円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 26 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	比企郡川島町立出丸小学校	実施日	H26.7 月～H27.3 月
代表者	関口　昭彦	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	荒川の自然再生体験		
活動目的	昔の荒川、入間川の自然が今も残る「三ツ又沼ビオトープ」に児童が育てたハンノキ・在来植物（キンミズヒキ、イヌタデ、チカラシバ）を植え、ミドリシジミなどの生き物を育てること。		
活動内容	5 年生と 6 年生の総合的な学習の時間の「川島の緑と水（環境を守る）」の学習で「荒川の自然再生」をテーマに取り組んだ。荒川の河川敷にある三ツ又沼ビオトープにおいて、自然観察を行うとともにハンノキの種の採集・育苗をし、その苗を再びビオトープに植え戻すことや、外来植物を取り除いたところに在来植物を植える自然再生の活動を行った。 学校近郊の荒川の河川敷にある三ツ又沼ビオトープにおける動植物の生態系の観察やハンノキ（ミドリシジミの繁殖樹）の苗木の植栽と種の採集などの活動を、日本生態系協会のサポーターの皆さんの支援をいただきながら定期的に行った。 秋から冬にかけて三ツ又沼ビオトープ周辺で採集したハンノキの種を、学校のプランターに植え、芽が出て苗木が育っていくと一本一本を鉢に植え替えて、2 年間育てた。今年度は苗木が育たず、植え戻すことはしなかったが、在来植物のキンミズヒキとチカラシバとイヌタデを種から育て、三ツ又沼ビオトープの外来植物を取り除いたところにキンミズヒキとチカラシバを植えた。 外来植物除去 在来植物を植える作業 発表会		
活動の成果	現地であるいは教室で、日本生態系協会のサポーターの方の指導を受けたり、資料で調べたりすることで、児童は環境保護に関する知識・理解を体験に基づき確かなものにしてきている。種から 2 年かけて育てたハンノキの苗を三ツ又沼ビオトープに植栽したり、苗木の周辺の下草を刈ったりという自然再生の本格的な活動を児童は体験し、環境保護意識を高めることができた。		
今後の改善点	苗木を育てるには、長い期間や、水やりや植え替え、肥料の管理など多くの手間をかけなければ、植え戻しができるまで大きくすることはできない。今年度、植え戻すことができなかったのは、発芽率の低さがあるので、発芽前後には特に水分管理等を行う必要を感じている。 また、5 年生と 6 年生の総合的な学習の時間の「川島の緑と水（環境を守る）」の学習の成果を発信して、保護者・地域の方に広めていきたい。		
最終助成決定額	９１，５７３円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成